

学習内容報告書 フォーマット

学校名	福岡県輝翔館中等学校
授業者	河野春香

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

課題研究

1-2. 学年

高校2年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な探究の時間

1-4. 単元の概要

これまで小学校から高等学校修了までの教育課程に位置付けられてきた「総合的な学習の時間」が、今回の学習指導要領改訂で、「総合的な探究の時間」と名前が変更されました。

その主旨として、まず、探究が高度化し、自律的に行われるということがあげられています。例えば、目的と解決の方法に矛盾がないかとか、自分にとって関わりの深い課題になっているかということです。また、そのような複雑な問題をさまざまな角度から、教科の枠を超えて考えていくということと同時に、この時間における学習活動が、解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題に対して、最適解や納得解を見いだすことを重視しているという点も指摘されています。

このように、名前を変えてまで特質を際立たせようとしたことには、この時間での学びが社会的にも大いに期待されているという背景があります。これまでのように、知識の量に左右されるのではなく、持っている知識をそれぞれ関連付け、ユニークで新しいものを生み出す力、言い換えれば、情報量はコンピュータやAIに任せて、自らの発想や問題意識にそって、答えのない課題に迫っていく力が求められているのだらうと思います。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

期待される学習効果として、以下の事が挙げられる。本校における探究型学習を行う事で、生徒は日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する経験を得る事で、①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現の過程を経由する。この過程から、自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程を繰り返す能力を有すると考えられる。「本にはそう書いてあるけど、本当にそう言えるのか」と疑問を持ち、確かめてみる方法を考え、データを集めて検証するスキルを身につける姿が期待される。本学習が達成する頃には、本校の教育理念である「21世紀の様々な分野に大きく羽ばたき、次代を担うエースとして光り輝く」姿であると確信している。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

最近、私たちの生活の中で普段使用しているあの液体ノリが癌治療に大きな効果をもたらす可能性が発見されたり、知識の量が圧倒的に少ないはずの小学生が、大人顔負けの研究成果を発表したりしています。既存の枠にとらわれない、良い意味で想定外の発想で思いがけない成果を生み出すことのできるような人材を育てたい。

1-7. 単元の展開 (全 37 時間)

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	SDGs とは何かを学ぶ。 各班に分かれて、SDGs の 14 番目のテーマである「海の豊かさを守ろう」に沿ったテーマを見つける。	環境省の HP などを案内し、MDGs からの流れや各国の取り組みについて概要を説明する。 タブレット端末
3	各班に分かれて、先行研究を調べる。 SDGs の取り組みが「海の豊かさを守ろう」にどのように関わられるのかを考える。 調べた文献は、Word に記録しておく。	テーマがほぼ同じ班は、生物視点で捉えるのか、環境視点で捉えるのかななどを導き、重ならないように指導する。 タブレット端末
5	校外活動を踏まえて中間発表会に向けての PowerPoint 作成。	データの保存場所を間違えないように指導する。 情報処理室にて班ごとに PC を使う。
1	中間発表会 班員全員が原稿を分担して発表を行う。	高校 1 年生が来年度の為に聴講する。 評価シートを一人一枚もらい、聴講した班の評価を行う。 第一薬科大学の先生方が来校 電子黒板
1	「第 3 回高校生サイエンス研究発表会 in 第一薬科大学 2021」のオンライン発表会 第 1 日目 本校にて 7 時限目に実施 全国から参加する学校と ZOOM にて繋がる。本校は 18 班参加する。	各班で予め作成したパワーポイントを用いて、聴き手に伝わる発表を行うよう指導する。 外部連携：第一薬科大学 ZOOM、電子黒板、タブレット端末を用いたオンライン発表
1	「第 3 回高校生サイエンス研究発表会 in 第一薬科大学 2021」のオンライン発表会 第 2 日目 本校にて 7 時限目に実施 全国から参加する学校と ZOOM にて繋がる。本校は 18 班参加する。	各班で予め作成したパワーポイントを用いて、聴き手に伝わる発表を行うよう指導する。 第一薬科大学 ZOOM、電子黒板、タブレット端末を用いたオンライン発表

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

「第 3 回高校生サイエンス研究発表会 in 第一薬科大学 2021」のオンライン発表会で、想いの伝わる発表を行うこと。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
ZOOM によるオンライン発表会 1 8 班のうち、前半の本時は 9 班が 3 つの教室に分かれて発表を行う。 班長を中心とした 5 人程のグループで、一人当たり 1 ～ 2 分ずつ話していく。 各班、6 分の発表を行う。 PowerPoint を示しながら説明する。 3 分間の質疑応答に適切に答える。	ZOOM によるオンライン発表という経験が無い生徒がほとんどであるため、話し方、目線などの指導が必要である。 各教室に 1 台のタブレット端末と電子黒板の両方を用意して、ZOOM を用いて、第一薬科大学の先生方と繋げる。 カメラを見て話せるように、できるだけ原稿を暗記するよう指導する。 PowerPoint の画面を体で隠さないように、立ち位置も意識させる。 音声ハウリングすることもあるので、ゆっくりと間を空けながら滑舌よく話す。 ジェスチャーも交えながら単調にならないように伝える工夫をする。 コロナ禍のため、本来だで行うはずの野外調査や実験、聞き取り調査などができなかった旨を聴き手に説明することも必要と伝える。

3. 今回の活動の自己評価

SDGsをテーマに、海の豊かさについて生徒主体の課題研究は、初めての指導であった。自然科学部での部活動による指導の経験はあったが、生徒のポテンシャルが違っていた。総合的な探究の時間に行う学習活動なので、SDGsに興味も示さない生徒も取り組むことになる。そういった生徒は、はじめ班長任せであった。そこで、外部講師として、元JICAで理学療法士であり、SDGsファシリテーターの資格を持つ庄田清人氏をお招きして、講演を行ってもらった。これには、啓発という狙いがあった。生徒は大変興味深く講義を受けた。質問も活発に出て、いい感触を得た。その後の活動は、班員全員に意欲が増していった。現地調査にもほとんどの生徒が都合をつけて、何度も足を運んだ。これには貴財団の助成金の力は大きかった。コロナ禍で家庭的にも交通費が厳しい生徒もいる。そこに助成金が出ることで、本来ならば参加の回数を減らしたり、見送ったりせざるを得ないところ、すべての活動をやり遂げることができた。

教員一人の力では微々たるものであるが、助成金があることで、外部講師を招いたり、校外学習が容易に行えたりすることが本当に有難かった。故に、自身の自己評価は高くはないが、内容はとても充実したものになったと思う。

4. 今後の課題

各班での活動だったが、班によっては班長への負担が大きかったように見受けられる。班員がすべて同じポテンシャルで活動できるわけではないが、教員からも分担を促し、できるだけみんなが携われるように導きたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。